

特別支援学校中学部（知的障害教育部門）における 「自立と社会参加に向けた教育」の充実にむけて

— 「キャリア発達にかかわる諸能力」を参考にした指導計画モデル（案）の作成 —

添 木 博¹

本研究は、県立特別支援学校中学部（知的障害教育部門）における「自立と社会参加に向けた教育」の充実にむけて、県立特別支援学校を有する県立特別支援学校を対象にアンケート調査を実施し、その取組状況を把握し、傾向や課題となる点を明らかにした。さらに、調査結果をもとに、県立総合教育センターが策定した「キャリア発達にかかわる諸能力」を参考にした指導計画モデル（案）を作成した。

はじめに

(1) 知的障害のある人の「自立と社会参加」

自立とは、一般的に「自分の力で生きていく」と考えられている。しかし、上岡（2007）は、知的障害のある人の自立とは、「自分の能力を精一杯だして、他人からの支援を最小にして生きている状態」とし、「できることやスキルの積み重ねではなく、主体的な行動の積み重ねが自立を実現する」とした。

一方、社会参加には、「みんなと同じようにする」というとらえ方がある。しかし、WHO（世界保健機構）のICF（国際生活機能分類）や、「障害のある人の権利に関する条約」の考え方を踏まえると、知的障害のある人の社会参加とは、「自分らしさを保ちながら、地域社会の中で主体的に生活していくこと」と言える。

これらから、知的障害のある人の「自立と社会参加」とは、「主体的な行動を積み重ね、他人からの適切な支援を受けつつ、自分らしさを保ちながら、地域社会で生きていくこと」と考える。

(2) 特別支援教育とキャリア教育

平成19年4月に一部改正された学校教育法第72条において、特別支援教育の目的は、「視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者（身体虚弱者を含む。以下同じ。）に対して、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識を授けること」とされた。

一方、平成16年1月に文部科学省から出された「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～」では、キャリア教育を「児童生徒一人一人の

キャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」(p. 7)とし、「学校のすべての教育活動を通じて推進」(p. 10)する必要性を示している。

これらから、とりわけ特別支援学校の教育活動にキャリア教育を取り入れることは、児童・生徒の自立と社会参加のために有用であると言える。

(3) 神奈川県立特別支援学校高等部における進路学習

神奈川県教育委員会は、「平成20年度学校教育指導の重点」の中で、特別支援学校教育指導の重点を、「これからの社会に対して未来を切り拓く力、豊かな人間性や望ましい社会性、基本的な生活習慣など『自立と社会参加』に向けた『生きる力』の育成」とし、自立と社会参加に向けた取組の重要性を示した。

県立特別支援学校高等部では、これまでも卒業後の生活に向けて、進路学習の実践が重ねられてきた。これについて、神奈川県立総合教育センター（以下 県立総合教育センター）の三島・篠原(2008)は、キャリア教育とICFの活動と参加の考えを参考に、進路学習を「進路先決定だけでなく自己理解を進めるなどのキャリア発達支援の視点を持ちながら、勤労観、職業観と社会参加を進める力を育てる学習」とし、知的障害教育部門高等部を有する県立特別支援学校を対象にした研究調査を実施し、「進路学習の内容一覧ー社会参加を進める力とその学習シラバス(例)ー」を作成し、高等部における進路学習の充実にむけての提案を示した。

研究の内容

1 研究の目的と方法

県立特別支援学校（知的障害教育部門）には、「小学部」、「中学部」、「高等部」の3つの学部が設置されている。小学部では基本的な行動や社会生活につながる行動など生活に必要な基礎的な能力と態度を身に付けることを、高等部では卒業後の家庭生活・社会生活・職業生活など実際に社会参加する上で必要となる知識

1 神奈川県立高津養護学校

研究分野（ライフステージを見通した支援教育臨床研究）

や技能及び態度及び活用する力を身に付けることを主なねらいとしている。両学部の間位置する中学部は、小学部で身に付けた基礎的なスキルを日常生活の中で生かせるようにし、社会生活や将来の職業生活に必要な基礎的な能力と態度を身に付ける時期と言える。

これまで県立特別支援学校中学部（知的障害教育部門）（以下 中学部）でも、自立と社会参加に向け、様々な実践が積み重ねられてきているが、キャリア発達支援の視点による実践の整理が、中学部生徒の自立と社会参加に向けて有用だと考えた。

そこで本研究では、「主体的行動を積み重ねて、より豊かに地域社会で生きていく力を育てる教育」を自立と社会参加に向けた教育と定義し、中学部における自立と社会参加に向けた教育の充実を図ることを目的とした。研究を進めるにあたり、中学部における自立と社会参加に向けた教育の取組状況や実践例を把握することと、キャリア発達支援の視点を持って調査結果の傾向と課題を明らかにした上で、学習内容を整理し示すことが有用であると考え、次の二つの方法を中心に研究を進めた。

- ① アンケート調査の実施
- ② 指導計画モデル(案)の作成

2 アンケート調査

(1) 調査目的と調査名

アンケート調査は、中学部における自立と社会参加に向けた教育の取組状況や実践例を把握し、その傾向や課題を明らかにすることを目的とした。調査名は、「特別支援学校中学部（知的障害教育部門）における『自立と社会参加に向けた教育』に関するアンケート調査」とした。

(2) 調査方法

調査は、知的障害教育部門中学部を設置する県立特別支援学校16校を対象とし、平成20年10月下旬に実施した。回答は、中学部をとりまとめる立場にある学部長等の教員に依頼した。

(3) 調査内容

アンケート調査の構成は、自立と社会参加に向けた教育の指導全般についての設問1（7項目、計18問）と、自立と社会参加に向けた教育に関連する単位についての設問2（5項目）とした。

なお、設問2で取り上げた授業場面は、現行学習指導要領（平成11年3月告示 平成15年12月一部改訂）や現行学習指導要領（平成11年3月）解説（以下 解説）から、自立や社会参加に関連が深いと考えられる生活単元学習、作業学習、職業・家庭、総合的な学習の時間の四つ（以下 調査対象授業）とした。

(4) 調査回答の傾向

アンケート調査の回答（以下 調査回答）は、16校すべてから回収した（回収率100%）。調査結果を分析

したところ、次のような傾向があった。

ア 自立と社会参加に向けた教育の指導全般について (7) 高等部進路学習との連携

調査回答から、高等部進路学習との連携の必要性への認識が高いことが分かった。これは、中学部卒業生のほとんどが進路先とする高等部との連携を重視しているからだと考えられる。

(イ) 個別教育計画及び個別の支援計画への反映

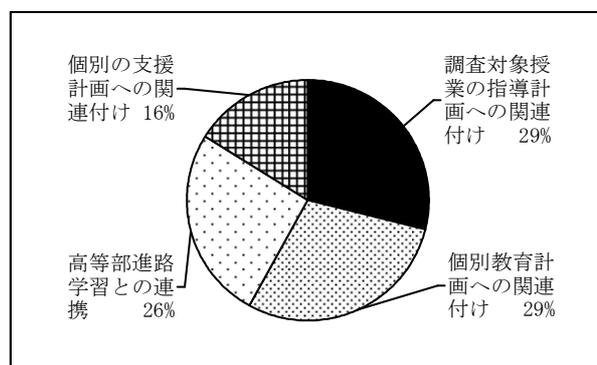
個別教育計画及び個別の支援計画への反映の必要性について、調査校全校が「感じている」と回答し、非常に高い認識を持っていることが分かった。また、反映状況の設問にも、「反映させている」「必要に応じて反映させている」と回答したことから、両計画への反映が実践されていることが分かった。

(ウ) 調査対象授業の指導計画への取り入れ

調査回答から、調査校全校において調査対象授業の指導計画に取り入れることへの関心が高いことと、実際に指導計画へ取り入れている学校が多いことが分かった。

(エ) 自立と社会参加に向けた教育の重点項目

今後中学部で自立と社会参加に向けた教育を推進する上で、重点的に取り組む必要性を感じる項目について、選択形式で回答を求めたところ、第1図に示したように様々なとらえ方があることが分かった。



第1図 自立と社会参加に向けた教育の重点項目

イ 自立と社会参加に向けた教育に関連する単位について

(7) 調査対象授業の単元のねらいとキャリア諸能力との関連

今回の調査では、自立と社会参加に関連する単位として、調査対象授業全体で116の単位が回答された。各単位がどのようなねらいを持って指導されているのかに注目することで、自立と社会参加に関連する単元の傾向や課題が明らかになると考えた。そこで、単元のねらいを内容ごとに分類し、その数を調査対象授業ごとに集計したのが、第1表である。

第1表から、生活単元学習における自立と社会参加に向けた教育に関連する単元のねらいが最も多いことが分かった。これは、生活単元学習が領域・教科を合

合わせた指導であるため、自立活動や保健体育、職業・家庭等の指導内容を生活に関連付けた単元が、自立と社会参加に向けた教育に関連する単元として回答されたためである。

第1表 調査対象授業ごとのねらいの数

	生活単元学習	作業学習	職業・家庭	総合的な学習の時間	合計
ねらいの数	38	21	24	21	104

また、本研究では、調査回答の傾向や課題を明らかにするためのキャリア発達支援の視点として、自己教育能力を一つの領域として取り上げている県立総合教育センターが策定した「キャリア発達にかかわる諸能力」(以下 キャリア諸能力)の5領域を取り入れ、調査対象授業ごとに分類したねらいと関連付け整理したものが第2表である。第2表から、情報活用能力に関連付けたねらいが、最も多いことが分かった。

第2表 キャリア諸能力と調査対象授業ごとの単元のねらいの数

キャリア諸能力(5領域)	生活単元学習	作業学習	職業・家庭	総合的な学習の時間	計
自己教育能力	3	1	1	0	5
人間関係能力	9	4	2	9	24
情報活用能力	17	10	16	7	50
将来設計能力	5	3	2	2	12
意思決定能力	4	3	3	3	13
計	38	21	24	21	104

(イ)生活単元学習での傾向

教育課程上、領域・教科を合わせた指導に位置付けられている生活単元学習は、解説において、「児童生徒が生活上の課題処理や問題解決のための一連の目的活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際の・総合的に学習するもの」とある。また、指導計画作成の重点に「(イ)単元は、必要な知識・技能の獲得とともに、生活上の望ましい習慣・態度の形成を図るものであり、身に付けた内容が生活に生かせるもの」とあることから、キャリア教育に関連が深い授業と言える。

第3表は、キャリア諸能力と生活単元学習における単元の主なねらいとの関連を示したものである。

第3表 キャリア諸能力と生活単元学習におけるねらいとの関連

キャリア諸能力(5領域)	主なねらい	ねらいの数
自己教育能力	・自分の成長について知る。 ・出かける楽しさを知り、期待感を持つ。	3
人間関係能力	・友達との適切な関わり方を知る。	9

情報活用能力	・公共施設利用のルールとマナーを知る。 ・健康な生活をするために必要な知識、技能を知り、身に付ける。	17
将来設計能力	・家族が家庭で行う仕事を理解する。	5
意思決定能力	・世の中のことに興味・関心を持ち、自分たちに来ることを考え、進んで取り組もうという意識を持つ。	4

(ウ)作業学習での傾向

教育課程上、領域・教科を合わせた指導として位置付けられている作業学習は、解説において「作業活動を学習活動の中心にすえ総合的に学習するものであり、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立を目指し、生活する力を高める」とあることから、キャリア教育に関連が深い授業と言える。

第4表は、キャリア諸能力と作業学習における単元のねらいとの関連を示したものである。

第4表 キャリア諸能力と作業学習におけるねらいとの関連

キャリア諸能力(5領域)	主なねらい	ねらいの数
自己教育能力	・楽しんで活動する。	1
人間関係能力	・返事、依頼、報告ができる。	4
情報活用能力	・作業内容、工程を理解し取り組む。 ・身支度や使用する道具を準備する。	10
将来設計能力	・役割を知る。	3
意思決定能力	・目標を持って作業に取り組む。	3

(エ)職業・家庭での傾向

教育課程上、教科別の指導として位置付けられている職業・家庭は、解説において、目標に「明るく豊かな職業生活や家庭生活が大切なことに気付くようにするとともに、職業生活及び家庭生活に必要な基礎的な知識と技能の習得を図り、実践的な態度を育てる。」、内容に「(1)働くことに関心を持ち、働く喜びを味わい、作業や実習に参加する。」とあることから、キャリア教育と関連が深い授業と言える。

第5表は、キャリア諸能力と職業・家庭における単元のねらいとの関連を示したものである。

第5表 キャリア諸能力と職業・家庭におけるねらいとの関連

キャリア諸能力(5領域)	主なねらい	ねらいの数
自己教育能力	・調理した物を会食する、作ったものを身に付ける等、活動の楽しさを知る。	1
人間関係能力	・みんなと協力して作業することの大切さを知る。	2
情報活用能力	・生活の中で使用する、基本的な道具の操作方法を知る。 ・使用する道具の準備片付けをする。	16
将来設計能力	・高等部の活動に参加し、高等部への進学を意識する。	2
意思決定能力	・一人でできる活動を増やす。	3

(オ)総合的な学習の時間での傾向

解説において、総合的な学習の時間のねらいは、「(1)自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。(2)学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。」とあることから、キャリア教育との関連が深い授業と言える。

第6表は、キャリア諸能力と総合的な学習の時間における単元のねらいとの関連を示したものである。

第6表 キャリア諸能力と総合的な学習の時間におけるねらいとの関連

キャリア諸能力(5領域)	主なねらいの内容	ねらいの数
自己教育能力	—	0
人間関係能力	・交流活動を通じて、社会的な態度や豊かな人間性を育む。	9
情報活用能力	・遠足、宿泊学習、修学旅行の見学地や移動手段について調べる。 ・施設の利用を通して、施設の役割を知る。	7
将来設計能力	・家庭でお手伝いをする。	2
意思決定能力	・いくつかの活動から、自ら選び、より自発的に活動に参加する力を養う。	3

(5)考察

調査回答と傾向から、調査校では、中学部における自立と社会参加に向けた教育の必要性は概ね認識され、指導されていることが分かったが、次の点について考察し、課題を整理した。

ア 自立と社会参加に向けた教育の推進について

中学部の教育目標には、自立と社会参加に関する目標があり、これを踏まえ、生徒の障害の状況や実態を基に個別教育計画や授業計画が作成されている現状がある。

自立と社会参加に向けた教育の推進には、まず自立と社会参加に向けた教育の内容を個別教育計画に関連付けてから授業計画に取り入れること、次に指導計画に基づいて活動を選択して指導の充実を図ることが、重要だと考える。第1図からも、調査校が、自立と社会参加に向けた教育の内容を、指導計画等に関連付けることを課題ととらえていることが分かった。

そこで、今回の調査回答を基に、自立と社会参加に向けて中学部段階で育みたいことを整理することが、自立と社会参加に向けた教育の内容を個別教育計画や授業計画に関連付けることの参考になると考えた。

イ キャリア諸能力とねらいとの関連について

第2表から、次の二つの点で考察し課題を整理した。一つ目は、調査対象授業において、情報活用能力に関連付けたねらいが最も多かったことである。これは、調査回答に「公共施設利用のルールとマナーを知る。」

「生活の中で使用する、基本的な道具の操作方法を知る。」とあったように、情報活用能力に関連付けたねらいには、生活に必要な基本的な知識や技能を身に付けることや、身に付けた基本的な知識や技能を生活の中で生かせるようになることがあり、自立と社会参加に向けて、中学部段階で特に重要ととらえられているからだと考える。

二つ目は、調査対象授業において、自己教育力に関連付けたねらいが非常に少なかったことである。自己教育能力に関連付けたねらいのうち、「出かける楽しさを知り、期待感を持つ。」には、主体的な行動につながる興味・関心を持って活動に参加するという視点が、また、「自分の成長を知る。」には、自分のことを知る活動を通して自分らしさを知るという視点が、それぞれ含まれていた。このことから、自己教育能力に関連付けたねらいには、自立と社会参加に向けて重要だと考える、「主体的な行動」や「自分らしさの獲得」につながる視点があり、調査対象授業に取り入れていくことが有用だと考える。

ウ 自立と社会参加に向け中学部段階で育みたいこと

ア、イの考察を踏まえ、調査回答の単元のねらいを基に、中学部段階で自立と社会参加に向けて育みたいことを整理し、キャリア諸能力との関係を第7表のようにまとめた。

第7表 中学部段階で自立と社会参加に向けて育みたいこと

キャリア諸能力(5領域)	中学部段階で自立と社会参加に向けて育みたいこと
自己教育能力	○自分の良いところ、好きなこと、興味のあることを知ること。 ○活動の楽しさを知り、期待感や興味・関心を持って活動に参加すること。 ○自分の考えや思いを表現する適切な方法を身に付け、相手に伝えようとする。
人間関係能力	○みんなと協力して作業や活動に参加することの大切さを知ること。 ○友達との適切な関わり方を知ること。 ○挨拶、返事、依頼、報告、場面に応じた振る舞いや発言を知り、身に付けること。
情報活用能力	○生活に必要な基本的な知識や技能を身に付けること。 ○公共施設利用のルールやマナーを知り、身に付けること。 ○自分の生活する地域の様子を知ること。 ○身に付けた基本的な知識や技能を生活の中で生かせるようになること。 ○手順や工程を理解して、取り組むこと。 ○準備や片付けをすること。
将来設計能力	○自分が担当する係活動を知り、その係活動が人の役に立つことを知ること。 ○担当した活動をやり遂げることで、達成感や充実感を得ること。 ○家族が家庭で行う仕事を理解し、家庭で手伝いに取り組もうとすること。 ○中学部卒業後の生活を思い描こうとすること。
意思決定能力	○遊びや活動を、主体的に選択し、参加すること。 ○一人で出来る活動を増やし、自己肯定感を高めること。

3 指導計画モデル（案）

(1) 作成の目的と方法

中学部における自立と社会参加に向けた教育の学習内容を整理し示すことを目的に、調査回答と第7表を基にして、指導計画モデル（案）（第8表）を作成した。

(2) 指導計画モデル（案）の項目と内容

指導計画モデル（案）の項目は、「分野」、「中学部段階で自立と社会参加に向けて育みたいこと」、「単元（例）」、「単元のねらい」、「指導内容（例）」、「評価の観点」、「授業場面」、「キャリア諸能力」の8項目とした。「分野」は、調査回答から、中学部における自立と社会参加に

向けた教育に関連が深いと考えた単元のまとまりを整理し、「自分について」、「家庭生活」、「地域での活動」、「交流」、「働く」、「楽しむ」の6分野とした。第7表を参考に、「中学部段階で自立と社会参加に向けて育みたいこと」には、各分野に関連があると考えた事項を示した。「単元（例）」には、調査回答を参考に、各分野での指導内容をイメージする単元名を示した。また、「単元のねらい」、「指導内容（例）」、「評価の観点」には、調査回答から主なものの例を示した。「授業場面」には調査対象授業を示し、「キャリア諸能力」には、その分野に該当するものを示した。

第8表 自立と社会参加に向けた教育の指導計画モデル（案）

分野	中学部段階で自立と社会参加に向けて育みたいこと	単元（例）	単元のねらい	指導内容(例)	評価の観点	授業場面	キャリア諸能力
自分について	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の良いところ、好きなこと、興味のあることを知ること。 ○自分の考えや思いを表現する適切な方法を身に付け、相手に伝えようとする。 ○中学部卒業後の生活を思い描こうとすること。 	自分のことを知る	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長(身長・体重等)を知る。 ・自分の良いところを知り、簡単な自己紹介の方法を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の成長を振り返る ○自己紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の成長を知ることができたか。 ・自分の良いところを知り、簡単な方法で自己紹介ができたか。 	生活単元学習	自己教育能力
		将来の自分	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活を思い描こうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○高等部体験 ○家族や先生へのインタビュー 	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部での生活や、家族や周囲の人たちの願いを知ること、卒業後の生活を思い描こうとすることができたか。 	総合的な学習の時間	将来設計能力
家庭生活	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の楽しさを知り、期待感や興味・関心を持って活動に参加すること。 ○みんなと協力して作業や活動に参加することの大切さを知ること。 ○生活に必要な基本的な知識を知り、技能を身に付けること。 ○身に付けた基本的な知識や技能を生活の中で生かせるようになること。 ○手順や工程を理解して、取り組むこと。 ○準備や片付けをすること。 ○自分が担当する係活動を知り、その係活動が人の役に立つことを知ること。 ○家族が家庭で行う仕事を理解し、家庭で手伝いに取り組もうとすること。 ○遊びや活動を主体的に選択し、参加すること。 ○一人で出来る活動を増やし、自己肯定感を高めること。 	買い物学習	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物には、お金のやりとりが必要なことを知る。 ・必要なもの探し出して、レジで支払う経験を積む。 ・家庭で家族がする仕事を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○調理材料購入 ○おつかい 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物には、お金のやりとりが必要なことを理解できたか。 ・必要なもの探し出して、レジで支払うことができたか。 ・家庭で家族がする仕事を理解することができたか。 	生活単元学習 作業学習 職業・家庭	自己教育能力 人間関係能力 情報活用能力 将来設計能力 意思決定能力
		調理学習	<ul style="list-style-type: none"> ・調理の楽しさを知る。 ・食物に関する基本的な知識や技能を身に付ける。 ・調理器具の基本的かつ安全な使い方を身に付ける。 ・衛生面に注意し、手順を理解して調理する。 ・家庭で家族がする仕事を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人分の食事作り ○お弁当づくり ○デザート作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・食物に関する基本的な知識や技能を身に付けることができたか。 ・調理器具を基本的かつ安全な使い方で使用できたか。 ・衛生面に注意し、手順を理解して調理できたか。 ・家庭で家族がする仕事を理解することができたか。 		
		清掃学習	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの環境を整えることを意識する。 ・清掃道具の基本的かつ安全な使い方を身に付ける。 ・手順を理解して清掃する。 ・家庭で家族がする仕事への理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○机やロッカーの中の整理 ○教室や廊下の清掃 ○校庭の草取り 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの環境を整えることを意識することができたか。 ・清掃道具を基本的かつ安全な使い方で使用できたか。 ・手順を理解して清掃できたか。 ・家庭で家族がする仕事を理解することができたか。 		
		洗濯学習	<ul style="list-style-type: none"> ・身に付ける物を清潔に保つ大切さを知る。 ・アイロンや洗濯機の基本的かつ安全な使い方を身に付ける。 ・手順を理解して洗濯する。 ・家庭で家族がする仕事への理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のものの洗濯 ○使用したものの洗濯 	<ul style="list-style-type: none"> ・身に付ける物を清潔に保つ大切さを知ることができたか。 ・アイロンや洗濯機を基本的かつ安全な使い方で使用できたか。 ・手順を理解して洗濯できたか。 ・家庭で家族がする仕事を理解することができたか。 		
地域での活動	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の楽しさを知り、期待感や興味・関心を持って活動に参加すること。 ○生活に必要な基本的な知識を知り、技能を身に付けること。 ○公共施設利用のルールやマナーを知り、身に付けること。 ○身に付けた基本的な知識や技能を生活の中で生かせるようになること。 ○自分の生活する地域の様子を知ること。 ○準備や片付けをすること。 ○遊びや活動を主体的に選択し、活動すること。 	交通安全学習	<ul style="list-style-type: none"> ・出かける楽しさを知る。 ・出かける準備を自分から行う。 ・交通ルールを守って、安全に歩行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校近隣の施設までの歩行（買い物学習・施設利用学習等の目的地までの移動） 	<ul style="list-style-type: none"> ・出かけることの楽しさを知り、期待感や興味・関心を持つことができたか。 ・出かける準備を自分から行おうとしたか。 ・交通ルールを守って、安全に歩行することができたか。 	生活単元学習 総合的な学習の時間	自己教育能力 情報活用能力 将来設計能力 意思決定能力
		公共交通機関の利用学習	<ul style="list-style-type: none"> ・出かける楽しさを知る。 ・公共交通機関の利用のルールやマナーを知る。 ・切符の購入の方法を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○電車やバスの利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・出かけることの楽しさを知り、期待感や興味・関心を持つことができたか。 ・公共交通機関の利用のルールやマナーを知ることができたか。 ・切符の購入の方法を知り、購入することができたか。 		
		施設利用学習	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の利用方法や、施設内でのマナーやルールを知る。 ・余暇で利用する施設やそこの活動を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○駅・郵便局・図書館・飲食店等の施設の利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の利用方法や、施設内でのマナーやルールを知り、守ることができたか。 ・余暇で利用する施設やそこの活動を知ることができたか。 		
交流	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の楽しさを知り、期待感や興味・関心を持って活動に参加すること。 ○自分の考えや思いを表現する適切な方法を身に付け、相手に伝えようとする。 ○みんなと協力して作業や活動に参加すること。 ○友達との適切な関わり方を知ること。 ○挨拶、返事、依頼、報告、場面に応じた振る舞いや発言を知り、身に付けること。 ○自分の生活する地域の様子を知ること。 ○遊びや活動を主体的に選択し、参加すること。 	人とのマナー	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の良いところを知る。 ・友達との好ましい関わり方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達、クラスの紹介 ○友達との関わり方 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の良いところを知ることができたか。 ・友達との好ましい関わり方を知ることができたか。 	生活単元学習 総合的な学習の時間	自己教育能力 人間関係能力 情報活用能力 意思決定能力
		学校の先生や友達との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と遊ぶことの楽しさを知り、人とかかわる経験を積む。 ・人と接する時のルールやマナーを知り、活動に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他のクラス、学年、学部の人たちとの交流 ○他校の児童・生徒との交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と遊ぶことの楽しさを知ることや、人とかかわる経験を積むことができたか。 ・人と接する時のルールやマナーを知り、活動に参加することができたか。 		
		地域の人との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人との交流を通して、社会参加の経験を積む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○昔遊び教室 ○学校行事への招待 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人との交流を通して、社会参加の経験を積むことができたか。 		

働く	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の楽しさを知り、期待感や興味・関心を持って活動に参加すること。 ○挨拶、返事、依頼、報告、場面に応じた振る舞いや発言を知り、身に付けること。 ○生活に必要な基本的な知識を知り、技能を身に付けること。 ○手順や工程を理解して、取り組むこと。 ○準備や片付けをすること。 ○自分が担当する係活動を知り、その係活動が人の役に立つことを知る。 ○担当した係活動をやり遂げることで、達成感や充実感を得ること。 ○一人で出来る活動を増やし、自己肯定感を高めること。 	作業学習	<ul style="list-style-type: none"> ・作業内容を知り、興味・関心を持つ。 ・作業工程を理解して作業に取り組む。 ・作業学習で使用する道具の準備や身支度、片付けをする。 ・作業学習で使用する道具の基本的かつ安全な使い方を身に付ける。 ・担当した仕事をやり遂げ、終了後に報告をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○織物・手芸・紙工・皮工・木工・農園芸・清掃・リサイクル等の作業班 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業内容を知り、興味・関心を持つことができたか。 ・作業工程を理解して、作業に取り組むことができたか。 ・作業学習で使用する道具の準備や身支度、片付けができたか。 ・作業学習で使用する道具を、基本的かつ安全な使い方で使用できたか。 ・担当した仕事をやり遂げ、終了後に報告ができたか。 	生活単元学習 作業学習	自己教育能力 人間関係能力 情報活用能力 将来設計能力 意思決定能力
	販売活動	<ul style="list-style-type: none"> ・販売活動を通して、挨拶や接客のやりとりを行い、人とかわる経験を積む。 ・販売活動を通して、製品を作成したことへの喜びや充実感を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○製品販売 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売活動を通して、挨拶や接客のやりとりを行い、人とかわる経験を積むことができたか。 ・販売活動を通して、製品を作成したことへの喜びや充実感を得ることができたか。 			
楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の楽しさを知り、期待感や興味・関心を持って活動に参加すること。 ○自分の生活する地域の様子を知ること。 ○遊びや活動を主体的に選択し、参加すること。 	余暇活動	<ul style="list-style-type: none"> ・余暇で利用する場所やそこでの活動を知り、興味・関心を持つ。 ・自分がやりたい活動を選び、主体的に活動に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校外学習 ○ゲーム集会 	<ul style="list-style-type: none"> ・余暇で利用する場所やそこでの活動を知り、興味・関心を持つことができたか。 ・自分がやりたい活動を選び、主体的に活動に参加することができたか。 	総合的な学習の時間	自己教育能力 情報活用能力 意思決定能力

4 まとめと課題

今回、中学部における自立と社会参加に向けた教育の充実を図ることを目的に研究を進めた。実施したアンケート調査から、その取組状況の傾向や課題が明らかになった。自立と社会参加に向けた教育の指導計画モデル（案）については、調査結果とキャリア諸能力とを関連付けて作成した。今後、実践の中でさらに考察を深め、指導計画モデル（案）の個別教育計画や授業の指導計画への関連付けといった活用方法について検証を深めていくことを課題としたい。

おわりに

今回の研究で、中学部における自立と社会参加に向けた教育の重要性を再認識することができた。本研究において、中学部における自立と社会参加に向けた教育の傾向と課題を明らかにできたことは、有意義だと考える。

最後に、本研究を進めるに当たり、アンケート調査に御協力いただいた学校ならびに先生方に深く感謝し、この研究の結びとしたい。

引用文献

上岡一世 2007 『自立と社会参加を目指す自閉症教育 4 こうすれば自閉症の子どもの就労は実現できる - QOL, QWL の向上を目指す -』 明治図書 p. 16

文部科学省 2004 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～」

神奈川県教育委員会 2008 「平成 20 年度学校教育指導の重点」 p. 10

三島賢治・篠原朋子 2008 「特別支援学校（知的障害教育部門）における就労を目指した進路学習の実践的研究」（神奈川県立総合教育センター『研究集録』第 27 集） p. 51

文部省 2000 『盲学校、聾学校及び養護学校学習指導要領(平成 11 年 3 月)解説-各教科、道徳及び特別活動編-』 東洋館出版社

文部省 2000 『盲学校、聾学校及び養護学校学習指導要領(平成 11 年 3 月)解説-総則等編-』 東洋館出版社

参考文献

神奈川県教育委員会 2008 「平成 19 年度 神奈川の特別支援教育資料」
(http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/ed_sign/databox/19siryoun.pdf (2008. 5. 8 取得))

神奈川県立総合教育センター 2005 『キャリア教育推進ハンドブック』

独立行政法人国立特殊教育総合研究所 2005 「知的障害養護学校における職業教育と就労支援に関する研究」

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 2008 「知的障害者の確かな就労を実現するための指導内容・方法に関する研究」

文部科学省 2004 『盲学校、聾学校及び養護学校教育要領・学習指導要領（平成 11 年 3 月）』 国立印刷局

松為信雄・菊池恵美子 2007 『職業リハビリテーション学〔改訂第 2 版〕キャリア発達と社会参加に向けた就労支援体系』 協同医書出版社